

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成 30年 8月 31日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 医学研究科内科学講座循環器内科学

職 名・学 年 博士課程4年生

氏 名 山下 侑吾

助成の種類	平成 30 年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	2018年欧州心臓病学会学術集会		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他()		
発表題目	Asian patients versus non-Asian patients in the efficacy and safety of direct oral anticoagulants relative to vitamin K antagonist for venous thromboembolism: a systemic review and meta-analysis		
開催場所	ドイツ ミュンヘン		
渡航期間	平成 30年 8月 24日 ~ 平成 30年 8月 30日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会参加登録料	約10万円
		渡航関連費	約5万円
滞在関連費		約15万円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の助成の御陰様で、有意義な学会発表を実施する事ができました。後進の方々のためにも、今後も継続頂ける事をお願い申し上げます。		

成果の概要

医学研究科循環器内科学

博士課程 4年 山下 侑吾

【学会の概要】

学会名：2018年欧州心臓病学会学術集会（ESC2018）

開催地：ドイツ ミュンヘン

開催期間：2018年8月25日～2018年8月29日

【学会内容】

欧州心臓病学会学術集会（ESC）は毎年8-9月頃に、欧州のいずれかの国内で開催される心臓病学に関する学術集会である。欧州を中心として世界各国（100か国以上）から、心臓病学を中心とした医師、研究者が参加し、近年は世界各国から3万人以上が参加する世界最大規模の循環器学術集会である。特に近年、学会への参加者数及び演題応募数が増加しており、世界中から最新の研究結果が発表され、より一層大規模な集会となっており注目を集めている。今年度も、例年通り3万人以上の参加者が集い、世界中からの最新の研究結果が報告され、活況であった。特に、**Hot Line Session** や **Late Breaking Session** と呼ばれる最新の注目の研究が報告される **Session** では、今年度も心臓病学に関する幅広いテーマの研究結果が報告され、多くの演題が学会発表と国際一流誌に同時に論文掲載される非常にレベルの高いものであった。

私が研究領域としている静脈血栓塞栓症に関しても、数多くのセッションが開催され、いずれのセッションでも世界中から専門家が多数集まり非常に活況であった。同領域では、世界的にも臨床上さらなる研究が必要とされているテーマが数多く存在し、多くのディスカッションが展開されており、今後の同領域でのさらなる研究が望まれる事を肌で感じる事が出来た。

【発表の内容】

私は、学術集会の3日目（8月27日）に、私の研究領域とする静脈血栓塞栓症の最新の注目の演題が口頭発表されるセッションにて、発表を行った。静脈血栓塞栓症患者の治療と予防には、従来はビタミンK阻害剤と呼ばれる凝固薬

が長年用いられてきた。近年、それに代わる新たな薬剤である直接型経口凝固阻害薬が使用可能になった。ビタミン K 阻害剤と比較した、新規の薬剤である直接型経口凝固阻害薬の有効性と安全性は、大規模な臨床試験で検証されている。しかしながら、その有効性と安全性の人種差については検討されていない。そこで、今回これまでに実施された大規模臨床試験の結果を検索し、結果を統合した上で、アジア人と非アジア人での違いが認められるかと検証した。結果、非アジア人でもアジア人でも、有効性に関しては同等の結果であったが、アジア人において、安全性に特に優れている可能性が示唆された。本研究結果は、日本を含めたアジア人における、同疾病の治療薬の選択の際に、非常に参考となる結果であると考えられる。

大会前日に欧州の同領域の一流の専門家と話す機会があり、アジア領域からの報告に興味を持って頂き、今回の学術集会での発表を非常に意義あるものにする事が出来た。当日の口頭発表では、聴講者・座長いずれからも質問を頂く事が出来、アジアでの人種差の違いやメタ解析の方法論に関する、非常に貴重なコメントを頂く事が出来た。世界の一流の専門家からの貴重なコメントは、私の今後さらなる研究にとって非常に価値あるものとなった。

また、発表を行ったセッションでは、同領域の今後を担う次世代の一流研究者も集っていたが、セッション終了後にそれらの参加者とディスカッションする機会に恵まれ、意見交換・人脈の拡大という意味においても、非常に貴重なものとする事が出来た。今回の発表は、発表の成功だけでなく、実際のセッションへの直接参加を通して、日本国内だけでは経験する事が出来ない、非常に貴重な体験をする事が出来た。

【謝辞】

今回、ESC2018 への参加、研究成果の発表は貴重な経験となりました。このような機会を与えてくださった京都大学教育研究振興財団に心より御礼申し上げます。